

櫻井良文先生のご逝去を悼む

光藤 裕之

岡山理科大学名誉教授

本会の創設者で初代会長の櫻井良文先生が、6月21日になくられました。91歳でした。40年余りにわたって、本会を導き育てていただきました。ありがとうございました。

大阪市西区江之子島にあった大阪府立工業奨励館は、現在の地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所に発展いたしました。1971年に館長に就任された菅田栄治先生（阪大名誉教授）は、セラミックスの機能性に注目されて、産学協同の会の創設を櫻井良文先生に託され、“家主”役を引き受けられました。櫻井先生は、阪大産研の小泉光恵教授と奨励館化学部の松本忠恕博士と相談を重ねられ、“ニューセラミックス懇話会”の名称を定められました。創立総会と第1回研究会は1972年7月5日、つまり40年も前のことでした。



故 櫻井良文先生

材料の開発は予想を超えた新しい性質を生むことであり、その意味で new なのであって、単なる fresh ではない。人々が自発的に集い気楽に話題を共有する自由な場は、“懇話会”と称するのが好ましい。このことは、櫻井先生のご見識であると同時にお人柄の鏡映でもありました。近年、新鮮で、詳細で、網羅的な情報・知識を即座に供する Web が登場しました。しかし、それだけでは“予想を超えた新しい”材料は生まれません。人々の懇話の場が大切です。名は体を表して、本会は40周年を越して、新世代に受け継がれ、材料科学とその産業に貢献し続けております。この会ほど、会費が安く、敷居が低く、学際的で業界的な場は滅多に見あたりません。

先生ご自身の研究分野をあえて一言でいえば、磁気工学です。電子のスピンに着目するスピントロニクスを先導されました。多様な磁気現象と磁性材料と作製法を取り上げられました。計測・制御・情報技術に不可欠な領域です。それらは追って実用化・商品化されました。電子の電荷に着目するエレクトロニクスに関して、思い出があります。1977年、当会5周年記念会が太閤園で行われました。その特別講演を、工業技術院電気試験所物理部長、ソニー研究所長等を歴任された鳩山道夫博士にお願いしました。博士は「エレクトロニクスは Si に始まり Si に終わる」と締めくくられました。櫻井先生は磁性材料の多様さと対比されていたのでしょうか、後々まで鳩山談話を懐かしんでおられました。

櫻井先生（1943年卒）と我が師 吹田徳雄先生（1937年卒）は、阪大 望月重雄教授（基礎工物性学科望月和子教授のご尊父）のもとでの兄弟弟子でした。私は、若き櫻井助教授から、「電気応用計測（今でいうセンシング技術）」の講義を受けた教え子であり、さらに学統上の“甥”に当たります。あの親身の優しさは格別でした。哀悼の念に堪えません。